

## 抗議文

駐日アメリカ合衆国大使館

特命全権大使

ウィリアム・F・ハガティ 閣下

貴国が、一昨年12月に引き続き本年2月13日に臨界前核実験を実施したとの報道に接しました。

核爆発を伴わないとはいえ、臨界前核実験の実施は、今後も核兵器を持ち続ける意思を表したものであり断じて許すことはできません。

本来なら貴国自ら核軍縮の模範となるよう先導すべきであるにも拘わらず、実験を繰り返していることに憤りの念を禁じ得ません。

国連で核兵器禁止条約が採択され、国際社会が「核兵器のない世界」の実現に向けて努力するなか、核兵器保有や新たな核兵器開発へつながる核実験を実施することは、核兵器廃絶を願う世界の人々の期待を裏切るものであり、国際社会における核軍縮・不拡散への取り組みに逆行するものです。

また、実際に原爆を体験した被爆者の辛く悲しい体験や、平和への思いを深く理解していただき、核兵器廃絶を願う世界の人々の期待を実現するために、今後、計画されている核実験をすべて中止するとともに、その主導的役割を果たされることを念願してやみません。

今回の貴国の臨界前核実験の実施に対し、非核平和都市宣言自治体として厳重に抗議します。そして茨木市民を代表して、一日も早い核兵器廃絶の実現に向けて努力されるよう強く求めますので、その旨を、本国へ伝達されますようお願いいたします。

2019年5月29日

大阪府茨木市長 福岡 洋

